

2020年度日本福祉文化学会第2回理事会次第

期日:2020年11月28日(土)10:00~12:30

オンライン会議

定足数 11名 出席者数 12名 委任状 7名 欠席 2名
次期理事 8名(オブザーバー)

出席者:石田 易司、永山 誠、マーレー 寛子、前嶋 元、島田 治子、
川北 典子、阿比留 久美、結城 俊哉、小河 佳子、小沼 肇、
雨宮 洋子、西野 佳名子
オブザーバー:馬場 清、稲田 泰紀、塩田 公子、篠原 拓也、五十嵐 真一、
片山 千佳、杉山 博昭、空 千秋
事務局:岡村 ヒロ子、中西 久雄、福山 正和

1. 開会

定足数と出席者数の確認を岡村事務局長が行い、理事会の成立が確認された。

2. 会長挨拶

石田会長より開会の挨拶があった。

3. 議長選出 (石田 易司会長)

4. 議事録署名人の選出 (マーレー 寛子副会長)(川北 典子理事)

5. 協議事項

第1号議案 2020年度前期事業活動報告・後期事業活動計画について

1. 総会の開催 (石田 易司会長)

・11月28日(土)に書面総会という形で実施。

書面での評決は届いているが、理事会での審議後に総会への提案、承認という形となる。

2. ブロック活動

【北海道ブロック】(小河 佳子理事)

・春については、見送り続けていたが、中止が決定した、また、12月の開催予定もコロナウイルス感染症の影響で中止を決定。今後開催を目指したい。

【東北ブロック】(小池 和幸理事欠席のため、石田会長より代理報告)

・コロナの影響により特にブロック活動前期実績無し。

【関東ブロック】(小沼 肇理事)

前期事業活動報告

- ・「福祉文化の広場」を開催

定期的に開催していた「福祉文化の広場」が、コロナ禍で2020年2月29日が最後に、開催をできていない。なお、9月30日にオンラインで「福祉文化の広場」を開催した。

- ・「映画を通していのちの尊厳を考える」の実施

当初、2020年3月7日に実施する予定になっていた〈シリーズ 映画を通して命の尊厳を考える～今問われている人間の存在とは～〉が、コロナ禍で2回延期され、実施できるまでには至っていない。

- ・会員相互の交流を盛んにする

関東ブロック会員への、学会の様子を知らせるメールは、発信できているが、まだ会員相互の交流を盛んにするまでには至っていない。

後期事業活動計画

- ・「福祉文化の広場」を1月24日に実施

現在、オンラインのハイブリッドなど、実施方法を工夫しながらの次の「福祉文化の広場」を開催、『私たちのメメント・モリ～死を思う経験～』の勉強会をすることなどの準備を進めている。

- ・「映画を通していのちの尊厳を考える」の実施

- ・会員相互の交流を盛んにする

【中部・東海ブロック】(平田 厚理事欠席のため岡村事務局長が代理報告)

前期事業活動報告

- ・活動の方向性

学会ブロック会員の連携の確立と共に、新規会員呼び掛けによる、新たな「地方発 福祉文化の創造」をもとに開催した「第30回日本福祉文化学会大会全国大会東海大会・第1回中部東海ブロック大会」(11月30日・12月1日)の成果を基に、更なる福祉文化実践活動の展開に務めた。

- ・新規会員拡大(当初21名)に静岡県内中心に各種研修会で働きかけた。

- ・中部東海ブロック会員活動の今後の組織化の基盤づくりのため、「第2回会員アンケート」実施。学会HP及びブロック通信等で結果を報告、次期活動に引き継ぐ。

- ・「第30回学会全国大会・第1回中部東海ブロック大会」実現から、地方発福祉文化の創造として「第2回ブロック大会」の実現に向けた連絡調整に努めた。

- ・会員相互の連携を目的に、「学会ブロック通信」を発行し、学会HPにアップした。3か月おきに発行している。

後期事業活動計画

- ・日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会開催 30名で開催

【北陸ブロック】(関矢 秀幸理事欠席のため五十嵐 真一次期理事より資料に基づき報告)

前期事業活動報告

- ・新年度にむけての打合せ 日時;4月4日(土) 参加者4名

- ・学習会 日時;8月29日(土) 参加者3名

・退会会員との懇談会 日時;9月26日(土) 参加者3名

後期事業活動計画

・地域福祉視察研修会 日時;10月31日(土) 場所;長岡市社会福祉協議会川口支所

・会員交流と情報交換のための「ZOOM」の利用検討

・退会会員との懇談会②

・新潟県内会員交流会 2021年3月を予定。

【関西ブロック】(脇坂 博史理事欠席のため石田会長より代理報告)

前期はコロナの影響により、活動を休止。後期もコロナの影響により未定である。

【中国・四国ブロック】(松原 徹理事欠席のため岡村事務局長より代理報告)

前期事業活動報告

・テーマ「口もたらす心と身体の健康」で講演を8月と9月に実施。4~7月の5回は中止や延期となった。

後期事業活動計画書

・後半も引き続き、非行、引きこもり、不登校など青少年問題の原因として大きくクローズアップされている不正咬合、低位舌など口の問題。対する音楽の正しい処方法を、ヴォイストレーニングを通じて教育、歯科、医科を中心に話し、広めていきたい。

【九州ブロック】(雨宮 洋子理事)

前期事業活動報告

・コロナ禍において面会の禁止、施設職員以外の施設の入出への制限等を行っている中で活動は行っていない。

後期事業活動計画

・日本中の行き来の制限は解けているが施設職員以外の施設関係者及び外部の人との接触には懸念を感じている。活動の計画は情勢を見て行っていく。施設職員は10人以上の集まり、滞在時間の制限、県外の人との接触自粛等されていることもあるので今後はオンライン会議が主流になると思うが、この環境が整っている施設の方がまだ少ない。新しい様式で福祉文化活動が途絶えることのないように事業活動を模索していきたい。

【沖縄ブロック】(安里 和子理事欠席のため岡村事務局長より代理報告)

前期事業活動報告

・定例会として毎月1回の沖縄福祉文化を考える会を開催。(4,5月は中止)

後期事業活動報告

・引き続き月1回のペースで研修を開催予定

3. 各種委員会活動

【総務委員会】(前嶋 元理事)

前期事業活動報告並びに後期事業活動計画

- ・「会員アンケート」(入会者・現会員・退会者)による会員のニーズの把握
 - ・会員のニーズに即した活動の検討・提案(現場会員の会費の見直し案)および会費ペア割の提案・検討
 - ・お見舞い文の作成(*九州地方および岐阜県・長野県豪雨)
 - ・現場会員増に向けた取り組み、若年層増に向けた取り組み
 - ・会員アンケート結果は、ブロック活動の充実と福祉文化を学ぶ機会などのニーズがある。
- 会費についても高いということが言われているので、低くする必要がある。ただ、現場と研究者を分ける案については3役とも相談をし、その案は取りやめ、準会員というシステムを導入する方法を考えた。規約の改定が必要である。

会費軽減のためのペア割(案)が提案され、以下の通り、理事からの意見が出された。

1. 島田理事:権利が制限されていることはあるが、5000円に会費が減額されていることもあり、準会員にペアが適当かを考える必要がある。
2. 阿比留理事:ペア会員は、現行会員が連れてくるというのが、見受けられるので、お仲間感が出てしまうのではないかと?新会員が二人連れだつて入ってくる可能性が現実的には少ないと考えられるつながりがない人は?
3. 結城理事:ペア割には後ろ向きな感じを受ける。懸念を感じる。

本件については石田会長より、「会費について、事務局、総務委員会に意見を出してほしい」「3月の理事会で採決する」という発言があった。

【研究委員会】(結城 俊哉・阿比留 久美理事より報告)

前期事業活動報告

1. 研究会について

- ・2020年3・4・5・6月は、新型コロナウイルス感染症防止と会場としていた立教大学の封鎖措置のため、中止し、9月から研究会を再開した。
- ・9月6日(日)10時~12時@早稲田大学
『私たちのメメント・モリ~死を思う経験~』の刊行記念会を関西ブロックの執筆者とも Zoom にて実施した。

2. 「福祉文化ブックレット No.1」刊行について

- ・『私たちのメメント・モリ~死を思う経験~』(やどかり出版)を2020年8月末に刊行した。
ブックレットは500部発行し、2か月ほどで、300部ほどが販売済み。社協等現場の方からの追加購入も多く、関東ブロックと共同で輪読会を開催する予定。

後期事業活動計画

1. 研究会について

- ・「わたしの最期を考える」研究会は、ブックレット刊行によりひとつ区切りを迎えた。そのため、今後は2019年度に実施していた「居場所」研究会と一体化しつつ、「居場所」研究会として、隔月程度で研究会を実施していく予定である。11月14日(土)17時~19時@早稲田大学にて開催。

2. 関東ブロックとの共同したブックレット輪読会

- ・『私たちのメメント・モリ~死を思う経験~』の輪読会を3回程度の連続研究会を企画していきたい。

【企画委員会】(島田 治子・川北 典子理事より報告)

前期事業活動報告

- ・企画・活動ともに実施無し。

後期事業活動計画

- ・現時点(11月)で決定している企画は無し。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、「コロナ禍での子どもの居場所づくり」についての研修会もしくは講演会を年度末目途に計画したいと考えている。
- ・沖縄大会に何らかのかたちでの参画の可能性を探る。
- ・人と人のつながりを分断するウィルスの蔓延によってもたらされたさまざまな事象について、できなくなったこと、新たにできるようになったことなど、今、記録しておくことが大切ではないかと考える。報告集の作成を検討。

川北理事:この状況が続くのであれば、オンラインでの研究会の開催の検討が必要である。ブロック活動との連携を考えていかなければならないと考えている。これまで経験をしたことのない状況で、福祉文化の視点からできたことできなかったこと、今後考えることなどを記録していく必要があるのではないかと考えている。この状況を残していくことが大切と考える。

島田理事:関東と関西という分け方ができるので良いと思っていたが、活かされたかどうかは不明である。ブロックとの連携(ほかにわ共和国、鶴橋コリアタウンなど)、他委員会との連携などで現場セミナーを検討してはどうかとしていたが、コロナの影響で実施できなかった。Zoomですべてやればいいのかというそれだけでは魅力的とは言えないので、この状況下でも現場セミナーを実施する方法の検討が必要である。

【広報委員会】(徳田 真彦理事欠席のため稲田(委員)次期理事より代理報告)

前期事業活動報告

- ・福祉文化通信 91号の発行、メールマガジン、メーリングリストの活用、広報周知体制整備、ホームページの運営

後期事業活動報告

- ・福祉文化通信 92号の発行、メールマガジン、メーリングリストの活用、広報周知体制整備、ホームページの運営
- ・コロナの影響下で頑張っている会員等の紹介もしていきたい。

【編集委員会】(中寫 洋理事欠席により、塩田次期委員)

前期事業活動報告

- ・第1回編集委員会; 2020年6月19日(月)Zoomによるオンライン会議

後期事業活動計画

- ・第2回編集委員会; 2020年10月25日(日)Zoomによるオンライン会議
- ・第3回編集委員会; 2021年3月26日(金)Zoomによるオンライン会議か対面会議を予定
Zoomで委員会は開催。査読が着々と終わっている。3月末の発行予定については若干、遅れる見込

み。川北理事から出たコロナの記録については研究誌に乗せることもいいのではないかと。

結城理事:分野が違う査読の依頼が突然届いた。事前の連絡もなく、いきなり原稿が届いても困るので、査読の依頼方法を検討が必要である。適切でない査読者は投稿者に失礼だと考える。
→投稿論文については複数名で査読者を決めている。現会員から選ぶが分野によっては、人が少ないため、分野外でも力量を期待してお願いをしている。

【国際交流委員会】(脇坂 博史理事・沈 潔理事両理事欠席のため、石田会長より)

前期事業活動報告

- ・新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、すべての活動を自粛。

後期事業活動計画

- ・新型コロナウイルス(COVID-19)の影響により、目処が立っていない。

【福祉文化実践学会賞選考委員会】(マーレー 寛子副会長)

前期事業活動報告

- ・2020年度日本福祉文化学会実践学会賞について、選考委員会において3月の選考結果、佐伯典彦会員の「視覚障がい者・聴覚障がい者等の伴走活動」の実践とした。その後、メール審議で理事会の承認を受け、受賞が確定した。

後期事業活動計画

- 1)佐伯典彦氏の授賞式を学会大会にて行う。大会が開催できない場合の授賞式の方法については、検討が必要である。
- 2)12月1日より2021年度福祉文化実践学会賞候補者の募集開始をHPにて行う。
- 3)2021年2月福祉文化実践学会賞候補者の募集締め切り予定
- 4)2021年3月より審議開始予定。

【研究委員会承認済みプロジェクト】(永山 誠副会長)

前期事業活動報告

〔I〕深読みプロジェクト「セキュリティ型福祉」の検討

—社会福祉士養成教科書『地域福祉の理論と方法』を読む—

- ・深読みプロジェクトではセキュリティ型福祉の観点から社会福祉士の養成テキストを深読みする。コロナ禍であったため、メール等での資料のやり取りで進めていった。

後期事業活動報告

- ・11月7日第18回を開催、12月以降も月1回の開催を予定
- ・2月27、28日に開催予定沖縄大会が開催されれば、永山報告「地域福祉の淵源は沖縄戦護郷隊にある」—「草稿:21世紀福祉を構想した男たち」の結論などのコメントもしたい。原稿は完成している。コロナの問題もこの学会にとっても重要ではないかと考えている。

石田会長:内容的に過激に受け取られる部分もあり、学会から出すブックレットとしては、いささか検討が必要な余地があると思われる。

永山副会長:目次「21世紀福祉を構想した男たち(草稿)」は草案であり、ブックレットとは直接、関係がない。

結城理事:ブックレット刊行調整委員会にかけるのが筋であるので、ブックレット刊行調整委員会に出してもらう必要がある。

永山副会長:当然、ブックレット刊行調整委員会に諮るつもりである。

【研究倫理委員会】(永山 誠副会長)

前期事業活動報告

＜福祉文化アカデミア＞の試行

学会誌論文作成支援事業の期間限定の試行開始提案

後期事業活動計画

学会誌論文作成支援事業の期間限定の開始(2020年12月)・学会HP参照(11月中)

前回大会で報告以降大きな動きはない。アカデミア(論文指導)については、承諾をされており、11月末までにホームページ掲載を考えているが、倫理審査の書類が届いているので、作業が立て込んでおり、遅れている。アカデミアの受付開始のアナウンスをしたい。

・編集委員会との連携を取ってほしいと石田会長より意見が出された。

4. 会議 (事務局)

1) 理事会・評議員会

(1) 第1回理事会 日時;7月19日(土)13:30~15:45 オンライン会議

(2) 第2回理事会・第1回評議員会 日時;11月28日(土)10:00~12:30 オンライン会議

(3) 第3回理事会 日時;2021年3月開催予定 オンライン会議

2) 三役会

(1) 第1回 日時;7月19日(日)10:30~12:00 オンライン会議

(2) 第2回 日時;11月27日(金)10:30~11:15 オンライン会議

(3) 第3回 日時;2021年3月開催予定 オンライン会議

3) 選挙管理委員会

(1) 第1回選挙管理委員会の設置・開催 日時;4月4日(土)11:30~14:00 会場;つどい場「私空間」

・委員選出;選挙管理委員長:空 千秋氏 選挙管理委員:長尾玲子氏

立会人:藤岡純一氏・小坂享子氏を決定

(2) 第8期評議員選挙 期間;5月20日(水)~6月20日(土)(消印有効)

有権者数:210名 投票者数:77名 投票率:36.67% 有効投票数:492票 無効投票数:47票

(3) 第2回 選挙管理委員会の開催 日時;6月25日(木)13:30~18:00 会場;事務局

・内容;開票作業・投票数の確認作業・ホームページ掲載

(4) 第8期評議員候補者の会 日時;9月12日(土)11:30~14:00 オンライン会議

・内容;第8期役員体制について

新評議員で理事選出 理事の互選で会長選任・副会長任命他

5. 事務局業務 (事務局)

- 1) 理事会・評議員会・総会の資料作成と印刷製本
- 2) 理事会・評議員会・総会の運営
- 3) 会員への福祉文化通信・福祉文化研究・各種資料・情報の発送
- 4) 「事務局だより」の発行
- 5) 会員名簿管理(入退会データ管理・所属先・連絡先変更管理)
- 6) 年会費の徴収
- 7) 財務管理
- 8) 事務局会議
- 9) 役員・ブロック・委員会等の連絡調整
- 10) 学会資料管理

第2号議案 2020年度前期決算(案)について(岡村事務局長)

- ・会費の納入率;65%、団体会員数;半減
- ・コロナの影響でブロック活動費の申請が3ブロックになっている。後期でも構わないので活動計画があれば申請していただきたい。
- ・事務管理費;旅費が0円になっているのはオンラインで理事会を開催しているためである。
- ・予備費;研究委員会ブックレット刊行助成金として40,000円執行している。

第3号議案 第8期役員体制(案)について(岡村事務局長)

- ・第8期日本福祉文化学会評議員選挙結果報告
有権者数:210名 投票者数:77名 有効投票数:492票 投票率:36.67% 無効投票数:47票
6票獲得の28名に就任を依頼したが、4名の辞退者があった。評議員に欠員が出るため、次点・もしくは理事会推薦として、下記の方に依頼し承諾を得た。
- ・追加要請と承諾者氏名
杉山博昭(中国四国ブロック) 滝口 真(九州ブロック) 篠原拓也(東北ブロック) 諸見里美(沖縄ブロック)

本議案については、以下の通り、質疑応答があった。

島田理事:副会長に女性を1名入れてほしい。

石田会長:もちろんそのつもりで検討したが、結果としてそうだった。

馬場次期副会長候補:申し合わせ事項として次期への引継ぎを残しておいた方が良い。

西野監事:考慮の上、決めたのであれば、問題がないのではないかと。もともと本学会は性別による役割偏重があるわけではないので。

島田理事:検討したらいいのではなく、対外的には偏りと見える。

阿比留理事:プロセスの公表を求めているわけではないと思われる。いえる範囲でプロセスの共有をお願いしたい。

石田会長:得票数より、検討した。岡村さんには引き続き事務局長として事務局を担ってほしい。マーレーさんは辞退。稲田さんには広報委員会理事をお願いしたい。その結果、佐野さん指名となった。

第4号議案 2021年度事業方針(案)について

議案としては取り下げ、新会長としてのメッセージとした。次期理事が方針をもとに運営計画を考えることが必要となるため、3月理事会にて事業方針(案)として、提出することとした。

6. 報告事項

報告事項 1 第8期評議員候補者の会

2020年9月12日(土)13:30~15:00 オンライン会議 出席者;新評議員・監事候補者 20名
第8期役員体制について協議され、新会長より挨拶があった。

報告事項 2 2020年度日本福祉文化学会 福祉文化実践学会賞の結果について

2020年度日本福祉文化学会実践学会賞について、3月の選考委員会において佐伯典彦会員の「視覚障がい者・聴覚障がい者等の伴走活動」の実践を候補とした。その後、メール審議で理事会の承認を受け、受賞が確定したことが報告された。

報告事項 3 2020年度第31回全国大会《沖縄》の進捗状況について

現時点では2021年2月27・28日開催を予定している。依然としてコロナの感染は収束の兆しをみせていない。11月下旬に実行委員会で開催の是非について意見をまとめ、12月初旬、佐久本真智子大会実行委員長に開催の是非について最終判断を請う予定である。研究発表大会をzoomでの実施を検討。基調講演は行いたい。沖縄福祉文化を考える会と相談中である。決定後、メールにて調整結果を報告する。

報告事項 4 2021年度第32回全国大会《京都》(仮称)の進捗状況について

10月30、31日に大谷大学(京都)にて開催を調整中。ただ、開催校には川北理事のほか1名しか学会員がいないため、関西ブロックや事務局の協力が必要である。コロナの影響で、授業がオンラインになれば、学外者はシャットアウトになるので、その際の対応の検討が必要。オンライン学会は佐野、中西両事務局次長の協力を要請した。

報告事項 5 会員状況(2020年11月10日現在)

個人会員;223名 学生会員;8名 団体会員;4団体 1名訃報が入ったため222名となっている。

7. 次回理事会

・次回理事会; 2021年3月 6日もしくは13日(土) 13:30~16:00で調整することとした。

8. その他

来次期監事より次回事業方針と予算の協議の依頼、島田理事よりメント・モリの報告の依頼があった。

議事録署名人:

川北典子 

議事録署名人:

マーレー寛子 